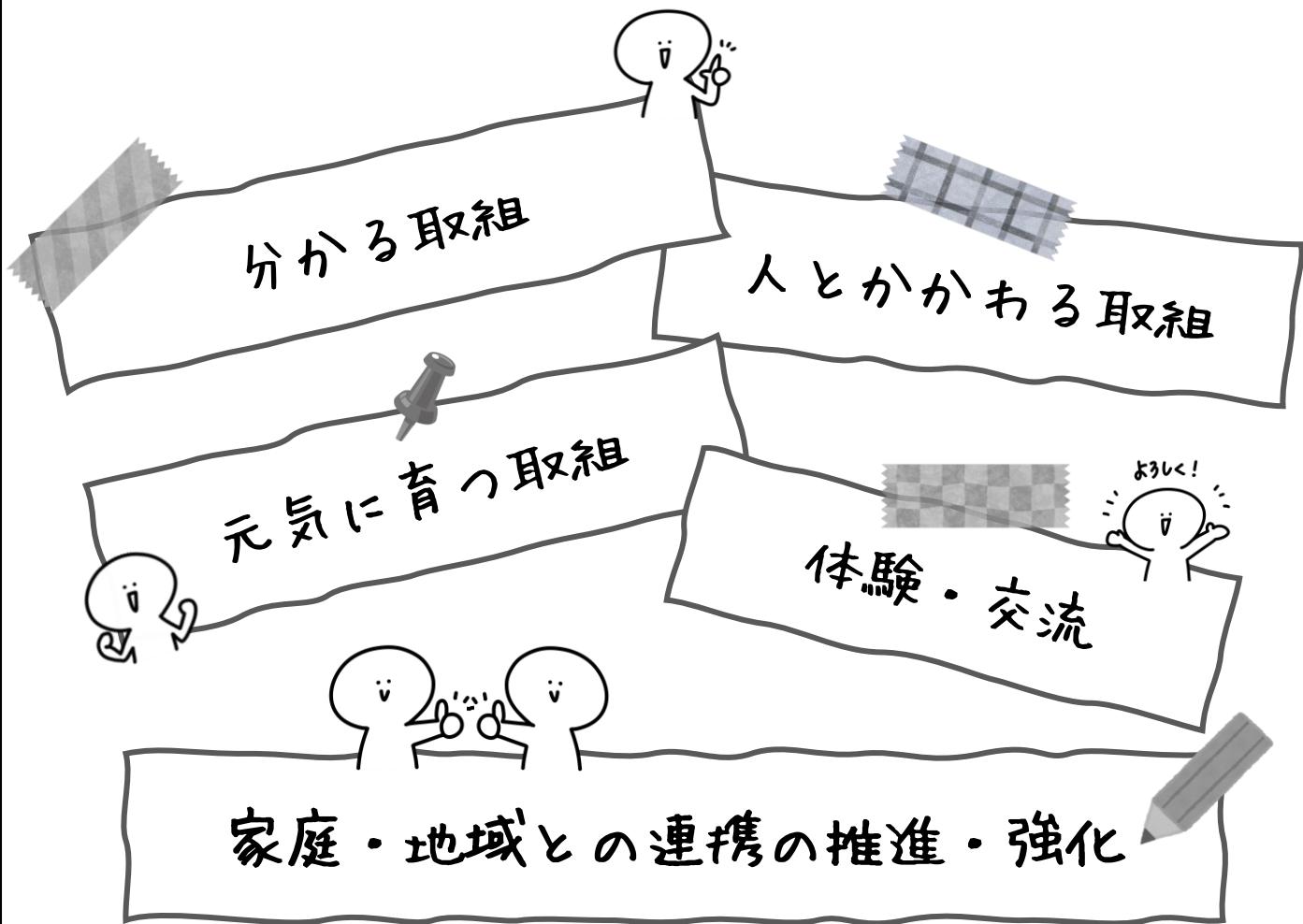


令和6年度 天沼小学校 学校評価

みんなの天小アンケート

結果報告



子ども主体の学びを通して
くわくわくする学校づくり



令和7年3月

杉並区立天沼小学校学校運営協議会
会長 渡部 公威
杉並区立天沼小学校
校長 薩摩 博之

日頃より本校の教育活動にご協力いただきありがとうございます。また、このたびの学校評価「みんなの天小アンケート」には、保護者の皆様、児童、教職員、地域の皆様等、天沼小学校に関わる多くの方にご回答いただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

ご協力いただきましたアンケート結果の集計が終了しましたので、皆様にご報告を申し上げます。

今年度の保護者アンケートの回収率は74.7%となり、多くの方にお答えいただきました。自由意見記述欄を含め、天沼小学校の教育活動に対して、ご理解をいただけている内容となっています。

以下、設問ごとの評価、自由記述欄のご意見に基づき、学校運営協議会で考察をし、次年度の教育活動に生かしていくよう協議を行った内容です。情報不足と考えられる事柄については解説も加えておりますので、あわせてご覧ください。

学校評価アンケート実施を通してめざすもの



この学校評価は、天沼小学校の目指す学校の教育目標や、育てたい子ども像の実現のため、今年度1年間に実践してきた主たる教育活動について、様々な立場の皆様から評価をいただき、学校運営協議会にて、その成果や課題に考察を加えて、次年度の教育計画や教育活動の改善に役立てる取組です。

- (1) 児童・保護者・地域の方と連携を深めながら、一人ひとりの子どものよりよい育ちを促すために、天沼小学校の教育への理解を深めていただく。
- (2) 天沼小学校の教育活動をより推進するための評価を責任をもって行い、学校教育活動への参画意識を高めていただく。
- (3) 「安全・安心な教育環境の実現」という視点から、施設・組織としての学校運営のあり方について連携と認識を深めていただく。

全体の傾向からみた考察



❖ 全体的に高い評価を示すアンケートの結果

アンケート全23項目（設問数29）の評価回答の結果を概観すると、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた「肯定回答率」は、多くの設問で8割以上となり、全体的に高い評価をいただくことができました。

一方、今年度のアンケート結果では、以下のようない傾向もありました。

- AWの活動のように、目にする機会が多い活動に対しての肯定回答率が向上している。
- スクールカウンセラーのように利用経験がないと内容を知ることができないことや、授業中の様子のように普段目にすることができないことに対して「判断がつかない」の回答が増加傾向にある。

学校としても、取組や子どもたちの様子について知っていただくことが重要と考えておりますので、情報発信に努めることを継続的課題ととらえています。

また、保護者の皆様には、是非授業や学校に足を運んで実際の様子を見て、学校や子どもたちの様子を実感していただきたいと思います。

なお、学校運営協議会では、年度初めに「『天沼小学校がめざす教育』のご紹介」と題した冊子をお配りするとともに、ホームページの「学校運営協議会【CS】」サイトでも天沼小学校がめざす教育のご紹介をしました。こちらについて皆様にご理解いただいたことで、今回の評価結果になったと考えています。

設問ごとのご報告



- ご報告の記載方法は、一番上に設問を、次にアンケート結果のグラフ、そして学校運営協議会・学校評価委員会にて協議検討した考察を示しております。
- 児童のアンケート結果につきましては、回答の選択肢を昨年度までの3択から4択に変更（「あまりそう思わない」を追加）することで単純に対比ができないため参考値として記載しています。
- 「次年度に向けて」については、学校運営協議会がこの評価結果を受け、今後の学校運営に対する意見を述べ、来年度の教育内容への反映を目指して協議した内容です。

また、家庭・地域の皆様と共に進めていきたい教育内容についても記載しています。
学校・家庭・地域が連携して、天沼小学校の子どもたちの成長を支援していきましょう。



学校運営協議会の1年間の活動を振り返って

天沼小学校学校運営協議会 会長 渡部 公威

日頃から天沼小学校の教育活動及び学校運営協議会の運営にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今年度、ご協力いただいた「みんなの天小アンケート」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。今年度のこのアンケートは、名称変更以外にも内容や回答の選択肢等についても、より分かりやすく、かつ答えやすく改善がされていたことにお気づきの方も大勢いらっしゃったことだと思います。

区で行っているアンケートと、この天小独自のアンケートの結果を基に、学校が子どもたちにとってよりよい教育を実践できるように、来年度の教育内容を考えていきますが、学校運営協議会は、少しでもそのお手伝いができるように協力させていただきます。多くの方からのアンケートへのご協力、本当にありがとうございました。

1.

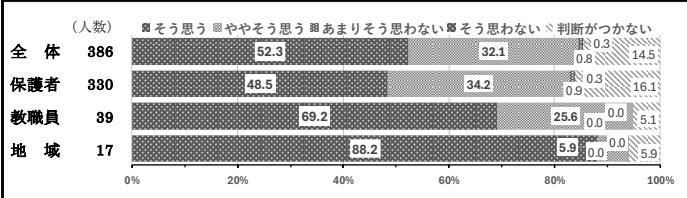
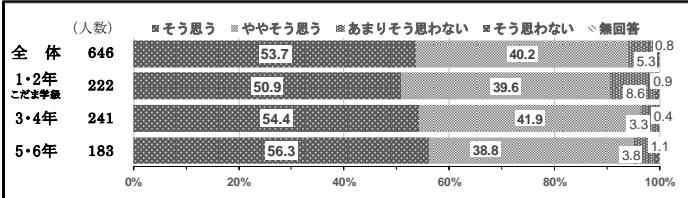
「子どもの主体性を引き出す」分かる取組

①「あまぬま学びの約束」の実践

- 設問1**
- 1・2年生・こだま学級 あまぬま学びのやくそくがわかり、守っています。
 - 3・4年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」など、学校生活のルールを守って生活しています。
 - 5・6年生 「天沼のきまり」「あまぬま学びの約束」などのルールを守り学校生活を送っています。
 - 保護者・教職員・地域 「あまぬま学びの約束」に基づいた授業運営が行われている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度 94%	昨年度 98%(参考値)

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度 85%	昨年度 85%



次年度に
向けて

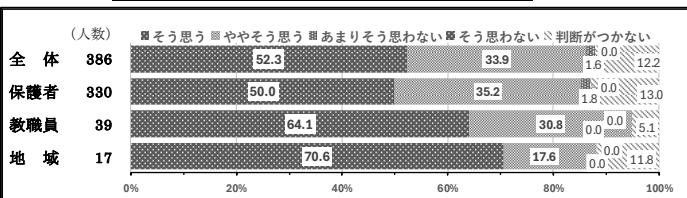
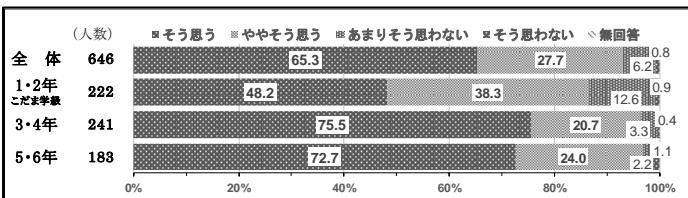
学校生活の基本ルールである「あまぬま学びの約束」(*次のページに説明のコラムがあります。)については、低学年のうちから継続的に取り組んでいきたいテーマとして今後も続けていきます。あいさつや帰宅時間、遊ぶ時間など生活における規範についてはぜひ家庭でも取り組んでいただき、学校と家庭が連携して基本的な生活規範を育てていけるよう、ご協力をお願いいたします。

②すべての教育活動での言語活動の充実

- 設問2**
- 1・2年生・こだま学級 授業の中で友達の話を聞いたり自分の考えを発表したりしています。
 - 3・4年生 授業では、話し合ったり考えを発表したりする活動があります。
 - 5・6年生 授業中に話し合い活動や振り返りの活動の時間があります。
 - 保護者・教職員・地域 授業では、文章の読み取りの機会、自分の考えを発表する機会や、話し合い活動を通して意見交流できる機会が設けられており、振り返りで具体的な言葉での表現を考える取組が行われている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度 93%	昨年度 95%(参考値)

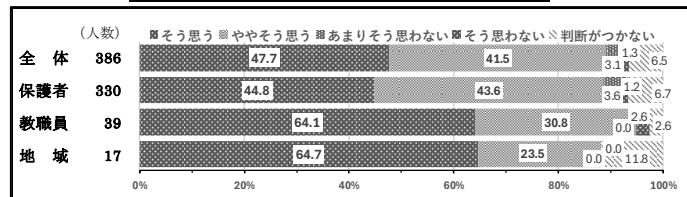
そう思う、ややそう思う の合計	
今年度 86%	昨年度 89%



次年度に

保護者・教職員・地域 授業を通して、学びの基本となる「聞く」「話す」「読む」「書く」力が養われている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度 89%	昨年度 89%



次年度に
向けて

アンケート結果を見ますと、学校におけるすべての教育活動において、自分で考え、自分の言葉で伝え、他者の意見をしっかりと聞く力を養う機会が、学習の中で積極的に設けられていることに対する評価になっています。これから社会では、こうしたコミュニケーション力がとても重要になっていきます。今後も引き続き「聞く」「話す」「読む」「書く」力をバランスよく育てる指導、さらに発表のときには原稿に頼らず、自分の言葉で話す力を養えるように取り組んでいきます。

よろしく！



自由記述欄での、労いや感謝のお言葉をいただきありがとうございます。
ご意見、ご質問の多かった点や、情報として発信させていただいたほうが良いと
考えた点は、以下のページにある“コラム”で解説します。合わせてご覧ください。



“コラム” ちょっとおさらい！
「あまぬま学びの約束」って？

「あまぬま学びの約束」は、天沼小における生活の基本ルールです。
この約束を守りながら充実した教育を進めていきます。ご家庭でもお声掛けをよろしくお願いします。

授業前の約束

- ① 休み時間のうちにトイレにいくなど用事をすませておきましょう
- ② 次の学習に必要なものを机の上に出しておきましょう

授業はじめの約束

- ① 授業の始まりには挨拶をしましょう。
- ② いすにすわったままでよい姿勢をしましょう。
(例) 「よい姿勢をしてください (気をつけ)」
「これから○○の学習をはじめます」
「よろしくお願ひします」

授業中の約束

- ・発言をするときはだまって手をあげましょう
- ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をして立ちましょう
- ・発言の最後は「～です」「～ます」で終わり、席につきましょう
- ・先生や友達の話を聞く時は、だまって最後まで、しっかり聞きましょう
- ・正しい姿勢や、正しい鉛筆の持ち方で学習しましょう



授業終わりの約束

- ◆授業の終わりには挨拶をしましょう。
- ・いすにすわったままでよい姿勢をしましょう
(例) 「よい姿勢をしてください (気をつけ)」
「これで○○の学習を終わります」
「ありがとうございました」

持ち物の約束

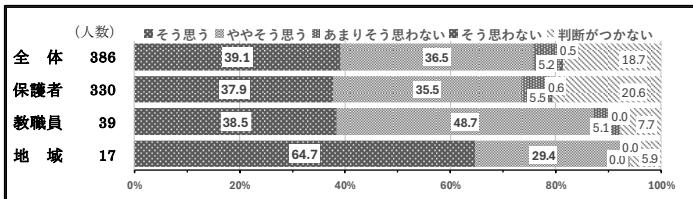
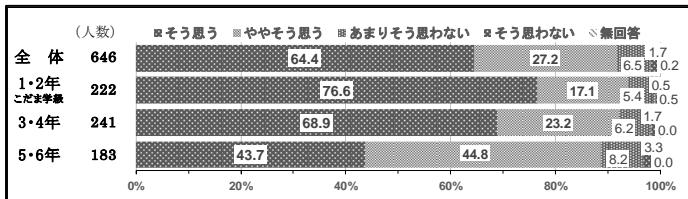
- ◆ふでばこの中に入れておくもの
- *けずった鉛筆5~6本 *赤鉛筆1本*
 - 消しゴム1個 *定規 *名前ペン
 - *シャープペンシルは持ってこない。
 - *勉強と関係のないものは持ってこない。
 - *高学年は、必要に応じて、筆箱に入るだけの色ペンをもってきてよい。
- ◆道具箱の中にかならず入れておくもの
- *のり *色鉛筆 *はさみ
 - *セロハンテープ

③課題解決学習の推進

- 設問4 1・2年生・こだま学級 授業では、先生は話し合いで出た意見を聞いてくれます。
3・4年生 授業では、課題や進め方を自分で決めて調べ学習をすることがあります。
5・6年生 授業では、自分で決めた課題に対して見通しをもって学習を進めています。
保護者・教職員・地域 授業では、児童が課題を決めて学習する機会が設けられている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
92%	--%

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
76%	--%



次年度に
向けて

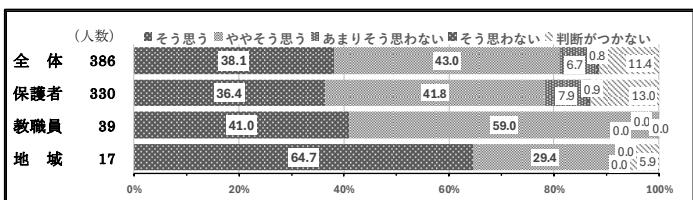
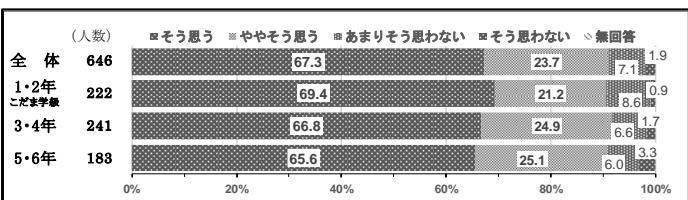
子どもたちの学習意欲を高めるために、授業では、教員が子どもたちの声を聞いて取り入れたり、子どもたち自身が取り組むべき課題を決めて学習する機会を設けたりして、子どもたちの自主性を意識した授業運営を進めています。次年度においても、引き続き、子どもたちの学習意欲を高める授業の進め方を研究、推進していきます。

④個に応じた学習指導の実施

- 設問5 1・2年生・こだま学級 算数少人数の授業では、勉強のはやさが自分に合っていて、わかりやすいです。
3・4年生 算数少人数の授業では、学習の進め方が自分に合っていて、わかりやすいです。
5・6年生 算数少人数授業では、自分に合った速さで学習ができ、内容の理解につながっています。
保護者・教職員・地域 多様な指導方法により、児童一人ひとりが意欲的に取り組める学習環境が整えられている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
91%	96%(参考値)

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
81%	87%



次年度に
向けて

子どもたちの肯定回答率を見ますと、算数少人数指導に関しては、日々の取組が成果につながっていると感じられる結果となりました。児童数が増加傾向にありますが、今後も一人ひとりの学習状況に合わせた指導を継続していきます。

“コラム” ちょっとおさらい！
「算数少人数指導」って？ どういう意味があるの？

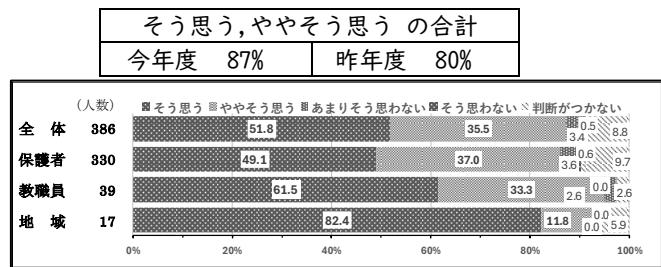


天沼小の算数の学習では、担任に加え算数少人数担当教員等との連携により、4学級を5つ、3学級を4つ、また2学級を3つに分ける等で授業を行い、学習の目的や内容に合わせ、個々に合ったきめ細やかな指導方法を取り入れています。それにより、一人ひとりが意欲的に取り組める学習環境がつくられています。

また、習熟度別指導の方法として、1年生は1学期に関しては、学校生活に慣れることを優先させるため、クラスごと複数の教員による指導を行い、学習が進んでからは習熟度別と分け方を変え、2年生以上は「どんどん・すくすく・じっくり」などのコースに分けて、基礎・基本部分の学習を確実に行っていき、また、理解の早い子どもはさらに発展問題等に取り組むなどの工夫をしています。

⑤教員の専門性の向上と、それを生かした指導の実施

設問6 保護者・教職員・地域 一部の教科等において専科教員が担当するなど、教員の専門性を生かした指導が行われている。

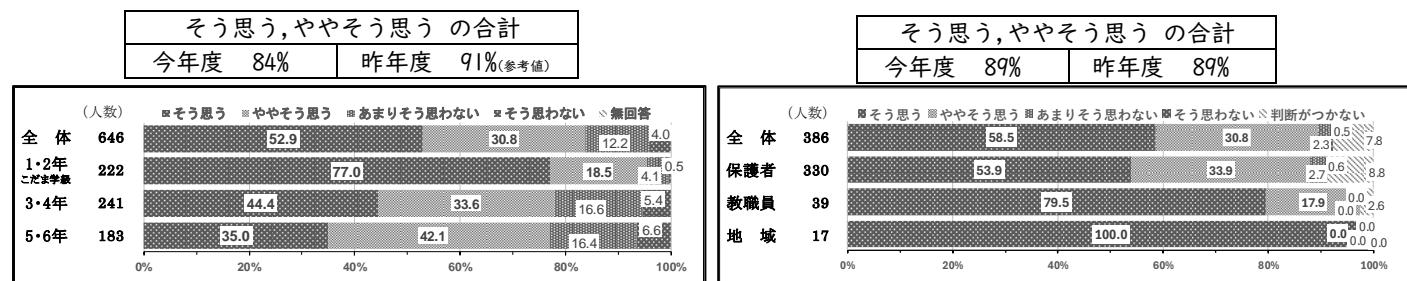


次年度に 向けて

天沼小では、4年生以上の学年で専科教員を採用したり、他の学年では教員毎の専門性を生かしたりして教育を行うことを目指しています。今年度は、音楽、理科、図画工作、外国語(5・6年生)の各教科を専科教員や講師が担当し、専門性を生かした教育を行うことができました。次年度も引き続き、さらなる指導力の向上と指導体制の構築に取り組んでいきたいと考えています。

⑥基礎学力定着のための取組

設問7 1・2年生・こだま学級 チャレンジタイムでの学習にがんばって取り組んでいます。
3・4年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。
5・6年生 チャレンジタイムで学習することで、より力がついています。
保護者・教職員・地域 授業の他にさまざまな取組^(*)を通して基礎・基本的な学習が定着するための機会を設けている。
(*) 例えば、フォローアップタイム(火曜日)、ハッピイすたでい(木曜日放課後)、ハッピイいんぐりっしゅ(金曜日放課後)、チャレンジタイム(月～金曜日)等



次年度に 向けて

「チャレンジタイム」を用いた学習時間では、算数を中心に行っていたこれまでと方針を変えて、今年度は主に漢字等の国語の基礎学力定着に取り組んできました。これまでのやり方に慣れている分、中・高学年の子どもたちには戸惑いもあったかもしれません。ただ、日々の繰り返しによって漢字を始めとする国語力を伸ばすことができますので、次年度も同様の取組を続けていきます。

「フォローアップタイム」等の取組についても、多様な学習機会の一つとして、今後も有効に活用していきたいと考えます。

どちらの取組も保護者への周知がされており、高い肯定回答率を得ております。このような活動は、継続して取り組むことが成果につながっていきますので、次年度以降も、学校支援本部等の地域協力者と教員との連携をしっかりと図り、学齢に応じてより効果的な学びの場として継続していきます。

2. 「子どもの主体性を引き出す」人とかかわる取組

⑦規範意識の醸成

設問8

1・2年生・こだま学級 きまりを守ることの大切さを教わっています。

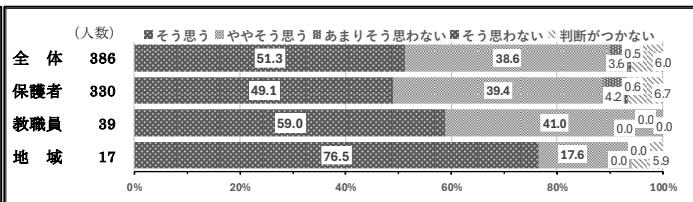
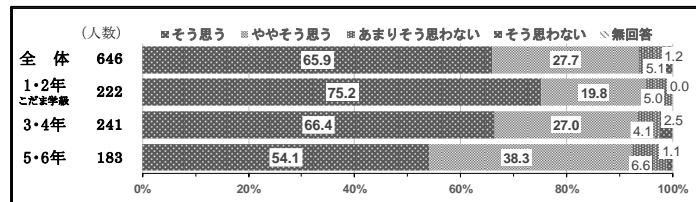
3・4年生 人と協力すること、助け合うなどの大切なことを学んでいます。

5・6年生 高学年としての自覚を持ち、きまりやルールを意識して行動しています。

保護者・教職員・地域 社会のきまり・ルールを意識する指導が低学年、中学年、高学年それぞれの学齢に応じて行われており、その学齢に応じた判断力が育まれている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
94%	97%(参考値)

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
90%	92%



次年度に
向けて

子どもたち、保護者ともに高い肯定回答率が得られました。学校において、規範意識の向上を図り、適切な判断力を身に付けられるように意識して指導を行うとともに、学校支援本部が運営する「ハッピィさたでい」や「ハッピィくらぶ」などの地域の指導者も、この点を意識した声かけをしてきたことが実を結んでいるといえます。規範意識を育むことは、学校運営協議会としてとても大切な問題として考えています。次年度も引き続き、地域と学校が協働して重点的に取り組んでいきます。

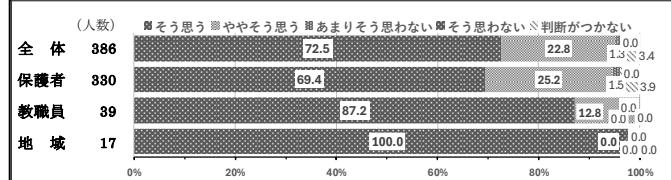
⑧地域に愛着と誇りをもつ子どもを育てる取組

設問9

保護者・教職員・地域 天沼小と、町会や商店会をはじめとする地域の方々との交流活動^(*)が、児童にとって天沼地域の一員としての自覚や地域への愛着心を育むのに役立っている。

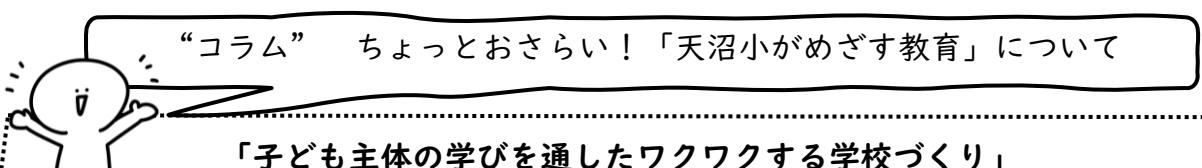
(*) 例えば、朝遊び、地域安全マップ作り、天沼会社経営プロジェクト(AKP)、わたしたちの天沼、弁天池公園での花を育てる活動、町たんけん、お店番体験等

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
95%	94%



次年度に
向けて

地域の方々との交流については、地域社会を構成する一員であるという自覚を育むためにも、継続的に行っていきます。学校支援本部がコーディネートする地域と連携した活動が、天沼小の大きな特色です。次年度以降、より子どもたちにとってプラスになる取組のコーディネートを進めていきます。



日々の学習や生活の中で、子どもたちの自己選択・自己決定を大切にしていきます。

自分で考える、自分で決める、自分で課題を立てる、自分で学習計画をたてる、解決に向けて取り組む、友達と交流するなどの学びは、子どもたちの主体性を育みワクワクしたものにつながると考えます。

家庭・地域との連携を通して、子ども主体の学びを進めることで、「自分たちの学校・地域に愛着と誇りをもち、夢を切り拓く子どもたち」を育てることを目指していきます。

⑨さまざまな人とかかわって生きる喜びを感じさせる取組（インクルーシブな心の育成）

設問 10

1・2年生・こだま学級 たてわりはんの人たちと楽しく遊んでいます。

3・4年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通して、ともに生活をする仲間として大切に思っています。

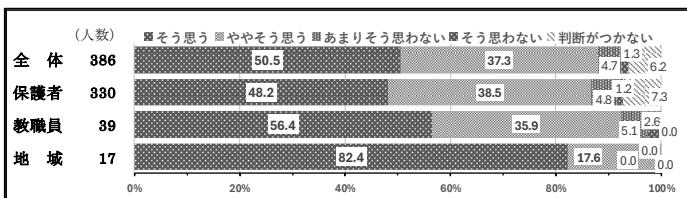
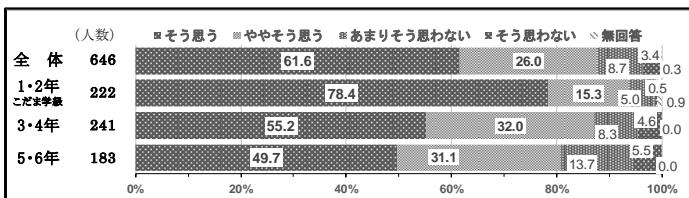
5・6年生 こだま学級との交流やたてわり班活動を通して、ともに生活をする仲間として尊重しています。

保護者・教職員・地域 さまざまな人たちとの関わりを大切にした活動^(*)が、「お互いを理解し合い、さまざまな人たちとかかわって生きる喜び」を児童が感じられるよう、機会の提供と必要な支援が行われている。

(*)例えば、こだま学級との交流、副籍交流、全校たてわり班活動、2学年合同の学習、地域の方々との交流、障害のある方々との交流、卒業生との関わり等

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度 88%	昨年度 95% (参考値)

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度 88%	昨年度 91%



次年度に 向けて

天沼小には通常学級と特別支援学級の子どもたちが共に活動する機会や、たてわり班における異なる学年同士の交流があります。こうした学級、学年の違う子どもたちと接することにより、社会性を育むことができますので、次年度以降も引き続き交流の機会を作っていきます。また、特別支援学級との交流については、児童数の違いから班や学級によって触れ合う機会に差が出てしまうため、コロナ禍で中止していた取組を復活させる等、次年度以降は交流の機会を増やしていきたいと考えています。また、日々の学校生活はもちろん、総合的な学習の時間等においても、「人とかかわるおもしろさ」に向き合っていきます。引き続き、こうした活動をより知っていただくために、学校からの情報の発信に努めて参ります。各ご家庭でもぜひ、多様性を認め、様々な立場、個性を發揮する人々とともに心地よく生きていくというテーマについて会話を深めていただきたいと思います。

“コラム” ちょっとおさらい！
天沼小の「インクルーシブ」について

天沼小での「人とのかかわり」の根幹となるのは「インクルーシブ」という考え方です。

インクルーシブとは、障害の有無、世代や文化の違いなどによらず、すべての人がお互いを理解し合い、認め合える「共生社会」を目指すことです。

特別支援学級（こだま学級）の設置校としての特性を生かした、インクルーシブな心に基づく豊かな社会性を育む取組、特別支援教室（あまぬま教室）による個々の課題に寄り添う支援のほか、障害のある人たちとの交流体験、たてわり班活動での異学年の子どもたちの交流活動、多世代の方々との交流学習を進めており、今年度からは、教室に入るまでに時間を要する子どもの見守り支援として、支援本部や民生・児童委員の皆様と連携した「ハッピィさぽーたー」の取組も開始しました。

さらに今年度は、これまでの校内委員会組織（ICT委員会・体育的行事委員会・文化的行事委員会）※に加えて、「特別支援委員会」を設けました。これは、各学年一名以上の教職員で情報を共有しながら、きめ細やかにチームで対応していくようにするための工夫です。

これからも一人一人に必要な支援を的確に行い、子どもたちの成長を促していきます。

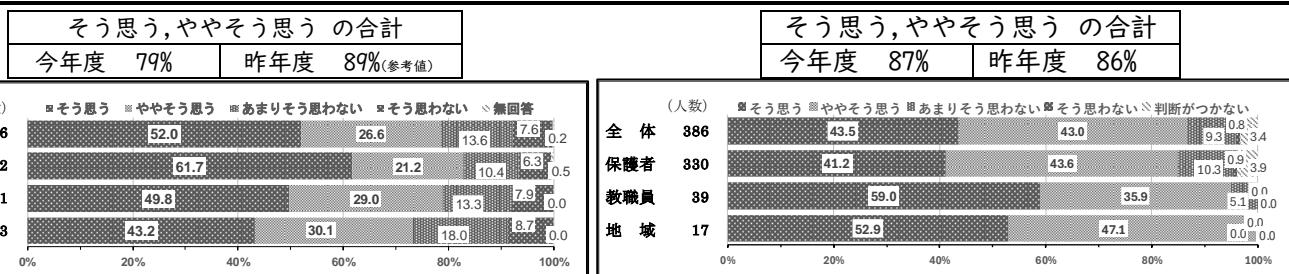
※「校務分掌」という教職員が役割分担して臨む組織編成（部会組織・委員会組織）があります。全教職員がどこかのグループに所属して、指導内容、行事運営、研究推進等について協議し、必要な対応をしながら、よりよい学校づくりを目指しています。

3.

「子どもの主体性を引き出す」元気に育つ取組

⑩体力の向上と健康の増進

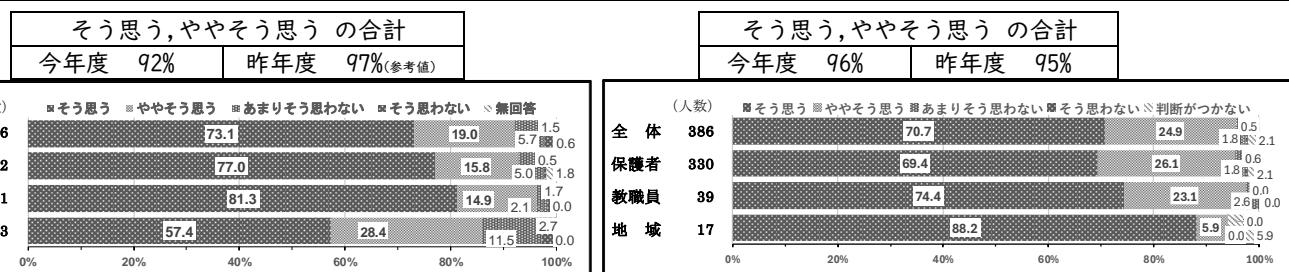
設問 11	1・2年生・こだま学級 休み時間や朝遊びで、なわとび、ボール遊びなど体を動かしています。
	3・4年生 休み時間やなわ跳びフェスティバル旬間を通して体力づくりにはげんでいます。
	5・6年生 なわ跳びフェスティバル旬間、持久走記録会旬間などの取組により体力の向上にはげんでいます。
保護者・教職員・地域	体育の授業に加えて校庭遊びの時間を確保したり、体力の向上と健康の増進を図ったりする取組(*)が子どもたちの心と体の健康づくりに役立っている。 (*)例えば、なわ跳びフェスティバル旬間、持久走記録会旬間、ゲストティーチャーの招へい、朝遊び、放課後遊び、放課後子ども教室「あまぬまハッピイくらぶ」、土曜日学校「あまぬまハッピイさたでい」等

次年度に
向けて

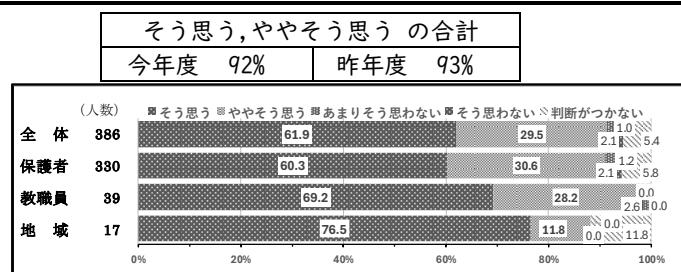
今年度行ってきた「なわ跳び旬間」「持久走記録会旬間」「朝遊び」「放課後遊び」、放課後子ども教室「あまぬまハッピイくらぶ」、土曜日学校「あまぬまハッピイさたでい」、ゲストティーチャーの招へいといった各取組に対して、高い評価をいただきました。学校では、子どもたちの体力の向上は継続的な課題と考えています。学級間で肯定回答率にばらつきが見られましたので、次年度は学年毎の目標を再確認し、子どもたちが楽しく体力づくりができるように、各学級が共通の意識を持って体育等の授業を進めています。また、通常の体育の授業を行うだけでなく、今後も「なわ跳び旬間」「持久走記録会旬間」のように身体を動かす取組に工夫をこらし、子どもたちの体力づくりに努めていきます。

⑪食育の推進

設問 12	1・2年生・こだま学級 楽しくきゅう食を食べています。
	3・4年生 楽しく給食の時間を過ごしています。
	5・6年生 メニューや食材などにも興味をもち、楽しく給食の時間を過ごしています。
保護者・教職員・地域	メニューや提供の仕方の工夫により、給食が多様性、栄養確保、食べる楽しさが図られたものとなっている。例えば、季節や伝統行事にちなんだメニューや伝統食の提供、物語に出てきたメニューを再現する図書とのコラボレーション給食、リザーブ給食の実施等



設問 13	保護者・教職員・地域 栄養士から提供された食に関するさまざまな情報により、学校で給食を通じた体と心の健康づくりが進められていることが感じられる。



次年度に 向けて

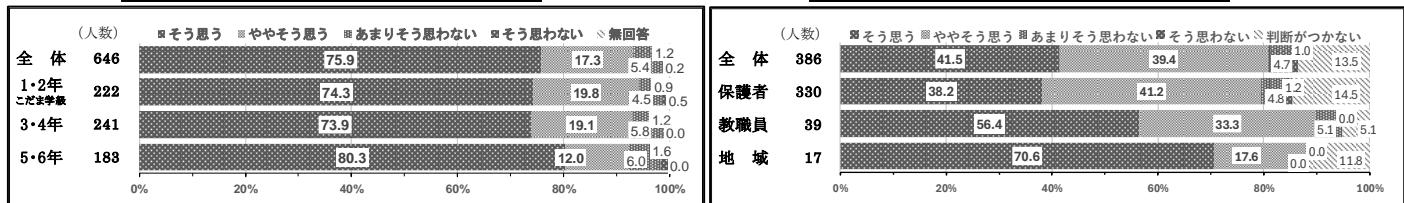
栄養士や調理員との連携により、多様なメニュー、安全で安心な給食が提供されています。昨今、材料費が高騰していますが、工夫を凝らすことにより区で決められた栄養価の基準を満たした給食を提供しています。毎月の「給食だより」(前月末日に配信)では「食」をテーマにした話題が掲載されていますので、ぜひご確認ください。

⑫かかわる力の育成

設問 14

- 1・2年生・こだま学級 友だちといっしょにあそんだり、べんきょうしたりしています。
3・4年生 休み時間(朝遊びや放課後遊びをふくむ。)や勉強の時間に友だちと一緒に活動しています。
5・6年生 休み時間(放課後遊びを含む)や授業を通して友だちとかかわっています。
保護者・教職員・地域 学校生活の中で子どもたち同士が関わり合う力を育むための工夫^(*)がされている。
(*)例えば、時程の工夫等による休み時間(朝遊びや放課後遊びを含む)の拡大等

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
93%	--%



次年度に 向けて

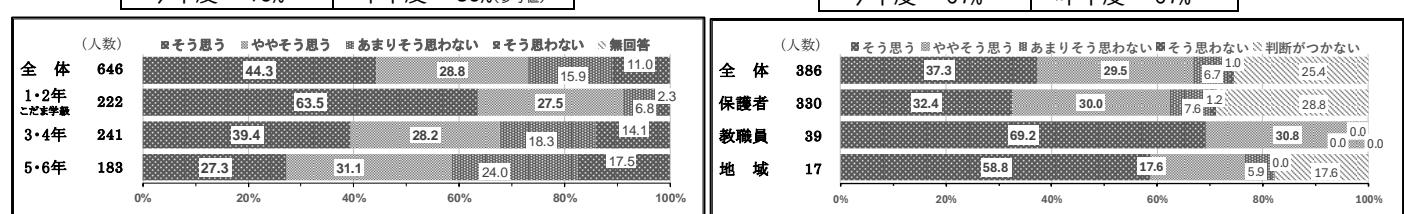
学校では、子どもたちが社会性を身につけるためには、子ども同士でのかかわりを増やしていくことが大事だと考えています。現在のところ、子どもたち自身は友達とかかわる機会について肯定的な評価をしていますので、引き続き子ども同士が関わる機会の確保に努めています。

⑬スクールカウンセラー等との連携を通じた心の安定を図る取組

設問 15

- 1・2年生・こだま学級 こまったときは先生にそうだんしようと思います。
3・4年生 学習や生活で悩んだ時には先生やスクールカウンセラーに相談しようと思います。
5・6年生 学習や生活の中で悩んだ時には先生やスクールカウンセラーに相談しようと思います。
保護者・教職員・地域 担任やスクールカウンセラーに気軽に相談できる環境の整備や、人間関係に関する問題の早期発見と予防のためにスクールカウンセラーと担任との連携が図られている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
73%	83%(参考値)



次年度に 向けて

学年が上がるに連れて肯定回答率が下がる傾向が見られます。中高学年は、発達段階的にも身近な友達をより大切に考える時期ともいわれます。一方で多様な子どもたちへの対応は、社会的な問題にもなっています。教員がゆとりを持ち、一人一人に寄り添い、対応していくために、校務改善に努めています。

学校ではスクールカウンセラーを配置しており、子どもだけでなく保護者も学校のことや友達とのかかわりなど日ごろの悩みについて相談することができます。

今年度は金曜を相談日とし、保護者、子どもからの相談に乗っていました。特に子どもからの相談には優先的に応じる形をとっており、1人につき2時間の面談時間を確保して、丁寧に相談に応じています。また、5年生は必ず全員が面談を行います。

来年度の来校日は未定ですが、決まり次第来校日、面談時間を学校からのお便りでお知らせします。スクールカウンセラーからは、「相談」というと堅苦しくなりますので、「おしゃべり」をする感覚で気軽に話しかけてほしいとのことでしたので、気になることがあれば是非相談してみてください。

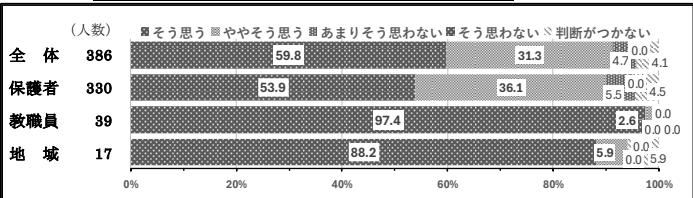
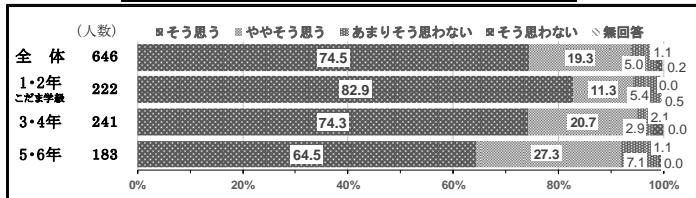
⑭読書活動の充実

設問 16

- 1・2年生・こだま学級 読み聞かせやお話会、図書の時間を楽しくすごしています。
 3・4年生 お話会、読書時間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
 5・6年生 お話会、読書時間、図書の授業など楽しく読書の時間に取り組んでいます。
保護者・教職員・地域 さまざまな取組^(*)を通して読書への関心を高めている。
 (*)例えば、お話会、読み聞かせ、読書時間等

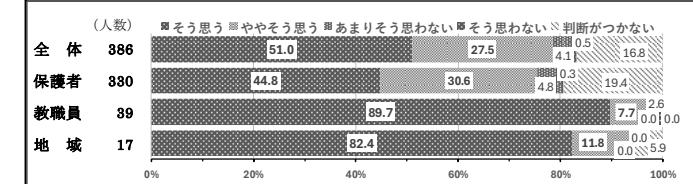
そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
94%	97%(参考値)

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
91%	93%



- 設問 17 **保護者・教職員・地域** 教員と学校司書との連携によって授業に必要な参考資料を揃えるなど、あまぬまとしょかん(学習・情報センター)が有効に活用されている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
79%	85%

次年度に
向けて

あまぬまとしょかんは、木製の素敵な書架に本が並び、子どもたちが自然に本に手をのばしたくなる図書館です。また、学習・情報センターとして資料に囲まれた中で、図書の授業が行え、子どもたち自身が必要な情報を探しやすい環境となっています。電子黒板も設置されているので、ウェブ情報と図書資料の両方を活用した調べ学習が可能になり、教科学習に生かされています。ぜひ、ご家庭で子どもたちに聞いてみてください。

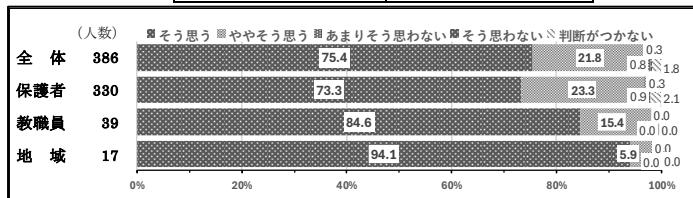
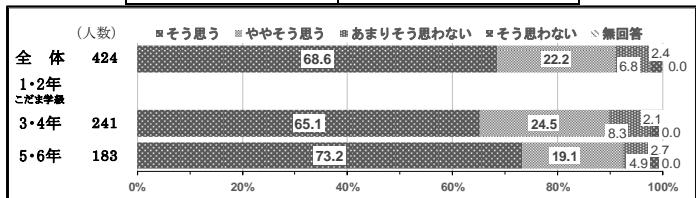
⑮地域と連携した体験的なキャリア教育の実施

設問 18

- 3・4年生 お店番体験（3年）や地域安全マップ作り（4年）を通して、自分が住んでいる地域のことや、人々のことがわかるようになりました。
 5・6年生 「AKP（天沼会社経営プロジェクト）」（5年）や「わたしたちの天沼」（6年）などの学習は、自分の将来の生き方に役立つと思います。
保護者・教職員・地域 学齢に応じて多彩なキャリア教育^(*)が実施されている。
 (*)例えば、あまぬままつり（全学年）、町たんけん（2年）、お店番体験（3年）、地域安全マップ作り（4年）、福祉・ユニバーサルデザイン学習（4年）、天沼会社経営プロジェクト（AKP）（5年）、わたしたちの天沼・裁判傍聴（6年）、手芸・ペットボトルキャッププロジェクト・弁天池公園で花を育てる活動（こだま）等

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
91%	94%(参考値)

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
97%	96%

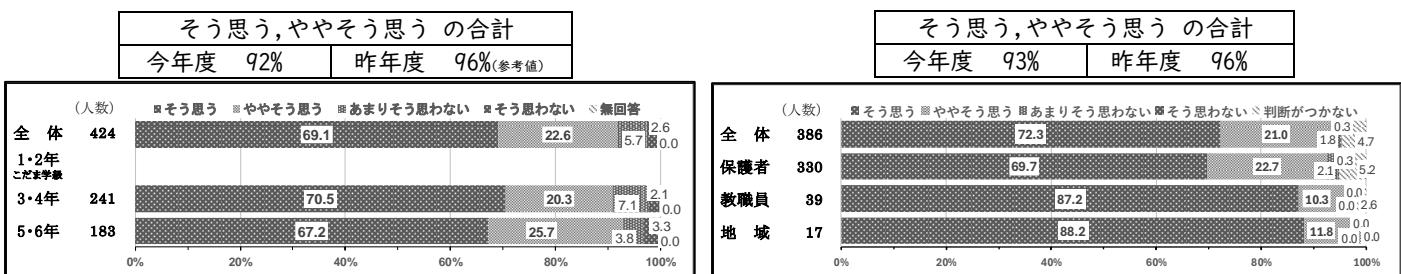
次年度に
向けて

キャリア教育は、新学習指導要領で提唱する「社会に開かれた教育課程」を具現化する学習です。天沼小では学習すべき大切な教育活動と捉えて、学年に応じた内容で取り組んでいます。

3年生は教会通り商店街での「お店番体験」、4年生は「地域安全マップ作り」「福祉・ユニバーサルデザイン学習」、5年生は起業家体験プログラム「天沼会社経営プロジェクト（AKP）」、6年生は地域の人たちと交流を行う「わたしたちの天沼」「裁判傍聴」、こだま学級は天沼弁天池公園荻の会の方々と弁天池公園で花を育てる活動などに取り組んでいます。子どもたちからも一定の評価が得られていることから、今後も天沼小の特色として継続してていきます。

⑯ 「ほんもの」に触れる多様な活動

- 設問 19 3・4年生 百人一首・書道・茶道、これから体験する華道・箏（4年）の授業を通して、日本の伝統（でんとう）・文化にふれることを楽しみにしています。
- 5・6年生 百人一首、茶道、書道、華道、箏の授業などを通し、日本の伝統・文化のよさに気づきました。
- 保護者・教職員・地域 ゲストティーチャーを招いた「ほんもの」に触れる活動^(*)が行われており、その活動によって日本の伝統・文化への理解、郷土に対する愛着心や多様な文化への理解が深まっている。
- (*)例えば、折り紙、茶道、書道、華道、伝統工芸、藍染、和菓子作り、百人一首等



次年度に向けて
地域の専門家をゲストティーチャーとしてお迎えしながら実施することができました。子どもたちの肯定率の高さから、理解を示されている取組と言えます。
今後も、日本の伝統・文化に親しみ、日本の良さや多様な文化を理解できる子どもたちを育てるため、学校支援本部と協働しながら取組を進めていきます。

“コラム” 知っていましたか？ 天沼小の「特色ある教育活動」について



天沼小学校では学校運営協議会と協議し、以下を「特色ある教育活動」に位置づけています。

人が生きていく上で必要な「人間力」と「文化力」を育てる教育を「不易」の教育活動と捉え、学校支援本部のコーディネートのもと、毎年様々な地域の方、保護者の皆様にご協力いただきながら活動に取り組んでいます。

①日本の伝統・文化理解教育

本物に触れる体験として、茶道・華道・書道・染物・百人一首・折り紙等を行っています。そこには、グローバル社会になっても、日本の伝統文化を大切にしつつ、海外の文化も理解できる心をもって欲しいとの願いが込められています。

②読書活動

本の世界を紡ぎ出す「素話」や「絵本の読み聞かせ」など、物語に触れる体験とともに、読書に親しむ場を作っています。これには「想像力豊かな人間性」をはぐくんで欲しいとの願いが込められています。

また、学校支援本部読書活動プロジェクトのメンバーは、毎月「絵本の会」という勉強会を行なながら、子どもたちのために活動をしています。

③キャリア教育

地域とかかわりながら、「社会の一員としての自覚」と、自分の役割を果たす「責任感」を養い、前向きに生きていって欲しいとの願いが込められています。

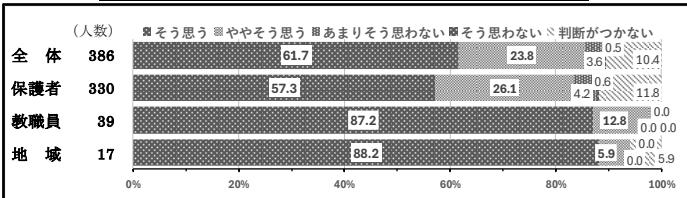
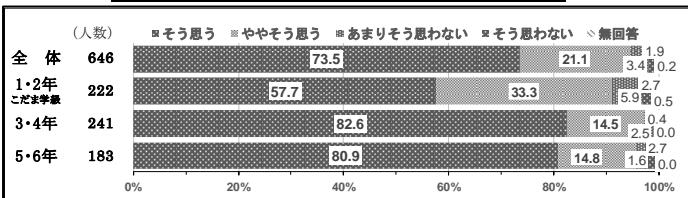
15ページにはご協力いただいている団体の一部をご紹介をしていますが、多くの方々のお力をいただきながら進めています。

⑦ICTを活用した学習活動の推進

- 設問20**
- 1・2年生・こだま学級 授業では、いろいろなことにタブレットを使っています。
 - 3・4年生 授業において、いろいろなことにタブレットを使っています。
 - 5・6年生 授業に加え、学校生活のさまざまな場面でもタブレットを活用しています。
 - 保護者・教職員・地域 デジタル教科書の活用やプログラミング教育の導入等、ICTインフラを積極的に活用した活動が行われている。

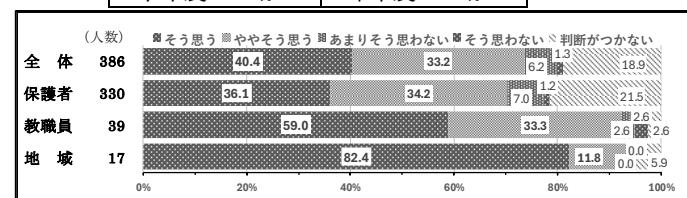
そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
95%	96%(参考値)

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
86%	91%



- 設問21 保護者・教職員・地域** ICTを扱うに当たって、利点だけでなくマナーや危険性も理解させる情報モラルの学習が行われている。

そう思う、ややそう思う の合計	
今年度	昨年度
74%	75%



次年度に
向けて

2学期より、各教室に大型モニターが導入されたことによって画面が見やすくなり、ICTが効果的に活用されています。また、デジタル教科書やデジタルドリルを活用することで、子どもたち一人一人の学習状況に応じた学習を進めています。学年が進むにつれて、タブレットを用いたプレゼンテーションの機会も多く設けています。こうしたICTによる利便性を図るとともに、専門家を招聘して情報モラルや危険性などを学ぶ授業も行っています。今年度から情報モラル指導用の教材が変わり、指導計画の見直しを行っています。これからも、子どもたちがICTに対する技能を高めつつ安全に活用できるような指導を進めて参ります。

“コラム”

時代の変化に対応して生き抜く力を育てるための 「情報教育」と「情報モラル教育」

天沼小では、よりよい教育活動につなげるため、教職員の実践研究を進めながら取り組んでいます。

① ICTを活用した授業の展開

3年生以上では、普段からタブレット端末をひとつのコミュニケーションツールとして活用しています。練習問題に取り組んだり、教科での調べ学習、子どもたちの考えを交流し合い、表現したり。また、動きを撮影して振り返りに使ったり、ソフトを活用しながら論理的な思考や判断力を養ったりと、ICTの有効活用をしています。

② 情報モラルの向上

情報を活用すればするほど、モラルの大切さが分かります。学校運営協議会主催で教職員・保護者・地域関係者で行った「サマーワークショップ2016」においても「情報教育とモラル教育は並行して進めることが必要」という意見を出し合い、現在もそのコンセプトを生かしながら、実践を進めています。端末やインターネットの活用は、これまで以上に学習の可能性を広げますが、同時に、守るべきルールをしっかりと守っていくことで、確実な学びにつながっていきます。

③ アナログとデジタル、双方の良いところを生かす

デジタルの活用をしていると、字が書けなくなる?本を読まなくなる?という不安がよぎりますが、今まで通り黒板に板書すること、紙に文字を書くことなどを併用しながら、互いの利点を合わせてより良い教育を行うことが必要です。これからもバランスを考えながら日々の学校教育を進めていきます。

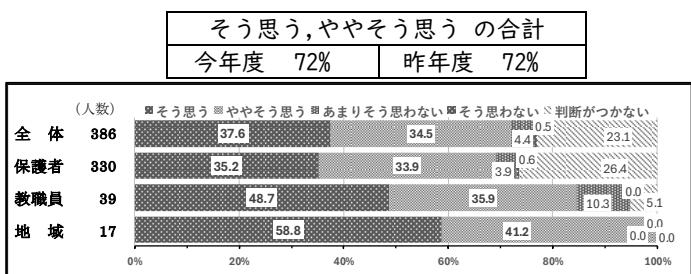
④ 保護者の皆様（3年生以上）へのお願い

タブレットは毎日持ち帰ります。教員の目の届かない場所で使うことになるため、使い方、使う時間など、各ご家庭でのルールづくりをしていただくことも大切です。ぜひご協力ください。

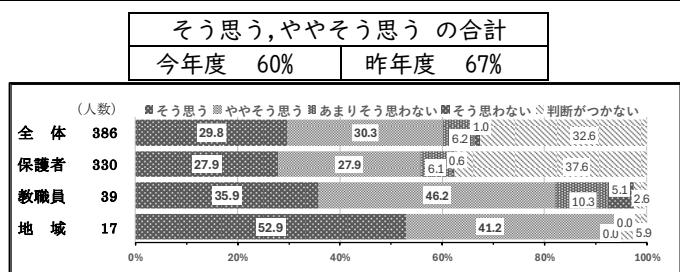
⑮天沼中学校区における小中連携教育活動（AKA）の取組

設問 22 保護者・教職員・地域 天沼中、沓掛小、天沼小の3校間の交流学習の一環として、天沼小の児童が、天沼中の生徒との交流学習^(*)を行っており、中学校生活へのイメージを膨らませるのに役立っている。

(*)例えば、中学1年生と6年生との百人一首大会、中学2年生による1年～4年生の各教科の授業サポート、中学3年生と5年生とのHUG訓練（防災ゲーム）、天沼中で実施する6年生の体験授業と5・6年生の部活動体験等



設問 23 保護者・教職員・地域 3校の教員は合同教員研修によって、情報交換、ノウハウの共有、系統的な教科指導の研究等をしており、こうした活動を通して、小中一貫教育の充実を目指している。



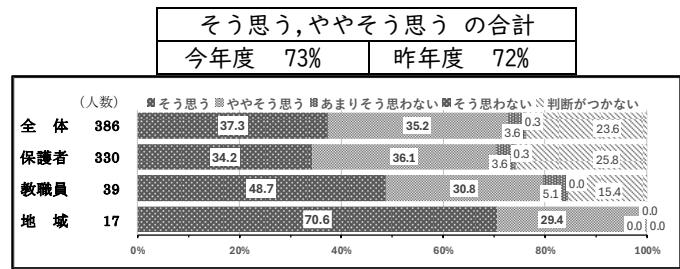
次年度に
向けて

AKA（天沼小・沓掛小・天沼中）は、小中一貫教育に向けて、合同で研修・交流し、情報交換を行うことで、小学校と中学校の円滑な接続を図ることを目的としています。令和6年度は、3校合同CS会議の開催、交流授業、各校での授業見学と3回の合同研修会を実施できました。

また、AKAの日（1月16日）には、中学2年生が天沼小に来て各学年のサポートを行い、1月10日には中学3年生が5年生と共に震災時を想定したHUG訓練を行いました。6年生は天沼中に行き、中学1年生と百人一首合同大会を行い、その後「小中未来サミット」を実施しました。来年度も引き続き、3校の教員や学校運営協議会が交流し、情報交換と研修を行っていきます。

⑯近隣の幼稚園・保育園と連携した「わくわく交流プロジェクト」の取組

設問 24 保護者・教職員・地域 近隣の幼・保育園児と3年生の児童が年に3回の交流活動を行っており、この活動が幼児にとっては「小1プロブレム」の解消、児童にとっては自己有用感や責任感などを育むのに役立っている。



次年度に
向けて

今年度は、幼稚園・保育園の園児たちを招いて、3年生が読み聞かせや昔あそびと一緒に行いました。この取組は学校生活の真ん中である、学校に慣れた中学年の3年生が年下の幼稚園児・保育園児と接することで、小学校入学の頃の新鮮な気持ちを思い出すとともに上級生としての自覚が芽生える機会となっています。

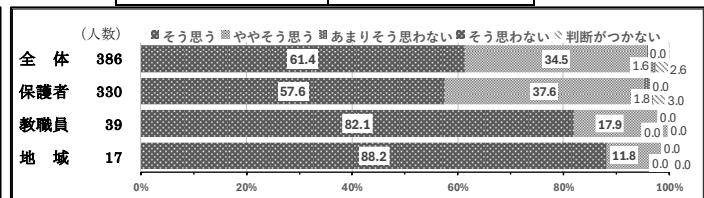
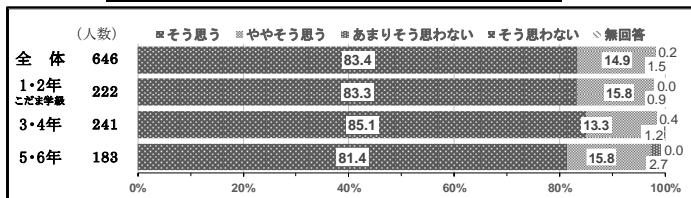
引き続きこうした子どもたちの精神的な成長を促す機会を作っていきます。

②学校施設の安全、防犯、防災への取組

- 設問 25**
- 1・2年生・こだま学級 ひなんくんれんでは、自分を守る方法を教わっています。
 - 3・4年生 避難訓練などで、災害の時は自分の身を守る方法を学んでいます。
 - 5・6年生 避難訓練などで、災害の時に自分の身を守る方法を学んでいます。
 - 保護者・教職員・地域** 避難訓練など多様な取組^(*)によって、児童が自分で身を守るための能力が育まれている。
- (*)例えば、月一回の避難訓練、引き取り訓練、地域を含めた訓練、セーフティ教室や防災教育等

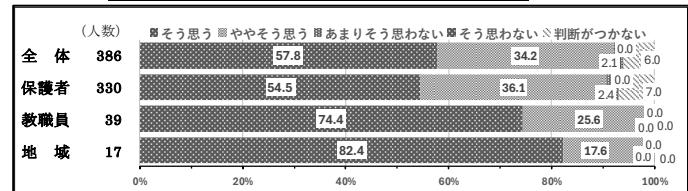
そう思う、ややそう思う の合計				
今年度	98%	昨年度	99%(参考値)	

そう思う、ややそう思う の合計				
今年度	96%	昨年度	95%	



- 設問 26 保護者・教職員・地域** 学校施設の安全・防犯・防災設備や仕組みを導入することで、安全の確保に向けた取組^(*)が行われている。
- (*)例えば、毎月一回学校による設備の点検、学期毎に行う P T A と連携した設備の点検、不審者訓練の実施等

そう思う、ややそう思う の合計				
今年度	92%	昨年度	95%	



次年度に
向けて

災害時への備えについて、様々な場面を想定した避難訓練を実施しています。また、天沼中への二次避難訓練を実施しました。今後も階段の通行ルール(右側通行、駆け上がらない、駆け下りない等)を徹底していきます。引き取り訓練はいざという時のために必要な危機管理の取組です。保護者の皆様も積極的に、かつ整然とご参加をお願いいたします。



天沼小と共に子どもたちをはぐくんでくださる地域の皆様

杉並区内の主な連携・協働団体のご紹介です。そのほかにも、多くの地域協力者の方々にお世話になっています。

天沼地区町会

- 天沼一丁目町会
- 天沼二丁目町会
- 天沼二丁目三よし会
- 天沼尚和会
- 天沼三丁目西町会
- 天沼三丁目あかるい町会
- 本天沼西町会

商店会

- 教会通り新栄会
- 寿通り商店街
- 荻窪駅前商店街
- 白山通り商店街
- 荻窪銀座商店街

天沼八幡神社

- 天沼熊野神社
- 東京青年会議所杉並区委員会
- 杉並かるた会
- 弁天池公園育て組「荻の会」
- 東京地下鉄株式会社荻窪駅
- サミット本天沼店
- 天沼児童館
- 上荻児童館
- 民生・児童委員
- 杉並区スポーツ推進委員
- コミュニティふらっと本天沼
- 杉並区社会福祉協議会
- ケア 24
- 子ども・子育てプラザ天沼

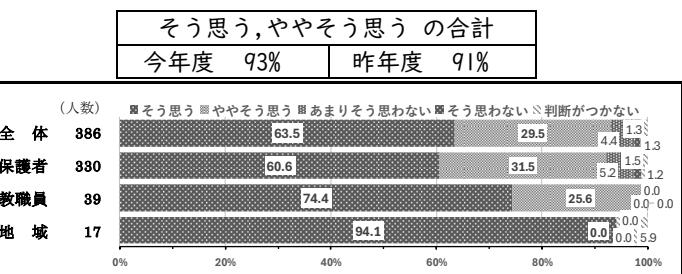
杉並ボランティアセンター

- すぎなみ協働プラザ
- (公益社団法人) 杉並区シルバー人材センター交通安全指導員
- F Mすぎなみ
- 荻窪警察署
- 杉並区役所
- 杉並区教育委員会
- 郷土博物館分館
- 地域の施設
- 杉並第五小学校同窓会
- あまぬまおやじの会
- 天沼小学校同窓会
- 天沼小学校 PTA
- など

いつもありがとうございます。次年度以降またお世話になります！

②迅速かつ的確な情報の公開・提供

設問 27 **保護者・教職員・地域** 学校を取り巻くさまざまな情報が、校長室だよりをはじめとする学校ホームページや配信ソフト（totoru）などを通して、迅速かつ的確に提供^(*)されている。
（*）例えば、あまぬまだより、給食だより、図書だより、保健だより、カウンセラー通信等



学校ホームページにてほぼ毎日更新されている「校長室だより」での配信が学校の様子を知っていただく一番の機会となっています。

あまぬまだより、給食だより、学年毎の連絡は「totoru」アプリを通じて行っています。

次年度に向けて

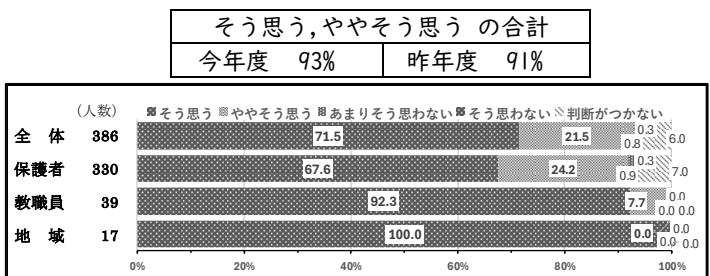
学校からの連絡は主として「totoru」アプリを通じて行いますので、学校から配信された情報をいち早く受け取れるように「通知を許可する」にアプリの設定をしていただくようお願いいたします。

特に、あまぬまだよりは、各学年の行事予定や、持ち物についての案内が記載されていますので、確認のために必ず目を通すようにしてください。

緊急時には、「totoru」とともに「校長室だより」で情報提供することも検討していますので、こちらもご確認ください。

②学校支援本部（あまぬまワンドラーズ（AW））の協力による教育活動の実施

設問 28 **保護者・教職員・地域** 天沼小では、学校支援本部（あまぬまワンドラーズ）との協働によって、地域の力を生かした様々な教育活動^(*)が行われていることが、天沼小の特徴となっている。
（*）例えば、ゲストティーチャーやサポーターのコーディネート、校外学習等の引率、学習補助、「あまぬまハッピイさたでい」や「あまぬまハッピイくらぶ」の運営等



天沼小学校の教育活動において、学校支援本部の存在が欠かせないものとなっていることを改めて感じる結果となりました。

「地域」と「学校」とをつなぐ組織である「学校支援本部」（あまぬまワンドラーズ）によって地域連携を実現させています。

例えば、校外学習や学校行事の引率補助や、学習補助、日本の伝統・文化理解教育や、キャリア教育をはじめとした、様々な授業への専門家のコーディネートなどが学校支援本部を通じて行われています。

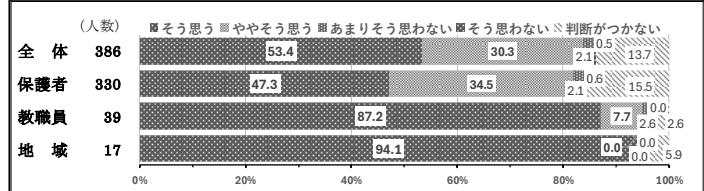
このように、天沼小では各学習や行事に地域の方々の助力をいただいており、教職員と地域と一緒にになって、レベルの高い学習を実現しています。

次年度に向けて

②「コミュニティ・スクール（地域運営学校（CS））」としての学校運営の進化

設問 29 保護者・教職員・地域 天沼小は、地域住民・保護者・学識経験者等が学校運営に参画し、「みんなの天小アンケート」で寄せられた評価・ご意見を生かした「地域運営学校＝コミュニティ・スクール（CS）」としての取組を進めている。

そう思う、ややそう思う の合計		
	今年度 84%	昨年度 82%



次年度に
向けて

天沼小では、様々な意見を学校運営に反映させるために、地域・保護者の代表や学識経験者などで構成された学校運営協議会が設置されており、校長とともに学校運営協議会を中心となって、子どもたちが質の高い教育を受けられるよう様々な検討を行っています。このような学校を地域運営学校「コミュニティ・スクール」と言っています。
今回のアンケートでいただいた声を次年度の教育課程に反映させていきます。地域の方々との連携をさらに深めて、子どもたちがさらにレベルの高い教育を受けることができるよう取り組んでまいります。地域・保護者の皆様に、さらなるご理解とご協力をお願ひいたします。また、学校運営協議会では、今年度より公式 note を設置し、情報の提供を開始しました。不定期でのアップとなります。こちらを通して学校の様子などをお伝えしていく予定です。

“コラム” 知っていますか?
「いじめ」 防止に対する取組



保護者の皆様にとって、「いじめ」に対しての関心は大きいことでしょう。
天沼小学校では、いじめを生まない、許さない指導を中心として、「いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止・早期発見・早期解決ができるように組織的に取り組んでいます。

○未然防止の取組

- (1) 子どもが安心して生活できる学校づくり（いじめを生まない指導）
自己肯定感や自尊感情を高めるために学級や学校全体を通して、子どもたちが活躍できる場面を計画、実践しています。また、たてわり班活動や委員会、クラブ活動等の異学年交流を通して一人一人が活躍できる場や機会を意図的に設定し、思いやりの心を育てるこことを目指しています。
- (2) 教職員の意識向上（いじめを許さない指導）
毎週金曜の職員夕会では情報交換を全教職員で行っています。また、年2回自己の取組の振り返りを行い、指導の見直しに役立てています。
互いを認め合う心情を育てていくことができるような授業作りを目指しています。

○早期発見

- (1) いじめアンケートの実施
毎学期1回、全児童で「いじめアンケート」に取り組んでいます。その結果を基にして、学級担任等が聞き取りを詳しく行い、早期発見ができるように努めています。
- (2) 学級担任、専科教員による日常的な子どもへの声掛け
登校時の専科教員の挨拶、教室での学級担任の声掛けなど、多くの教職員が子どもたちと関わりながら様子の変化を見逃さないようにしています。

○早期対応「組織的な取り組み」

万が一「いじめ」を発見した場合には、校内の「いじめ対策委員会」を中心に早期対応を心掛けています。発見から解決までのフローチャートを参考にして情報交換を行い、子どもたち一人一人に配慮しながら解決に向けた取組を行っています。また、解決後も子どもの様子の観察を継続して行うようにしています。

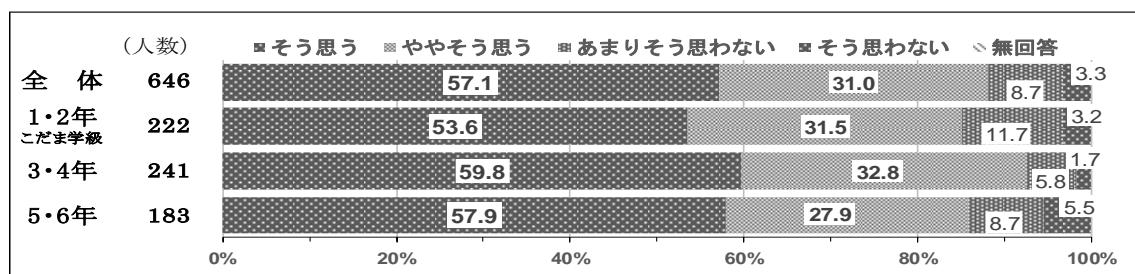
【今年度の目標】保護者・地域・学校が一体となって取り組むテーマへのアンケート結果

「天沼小学校がめざす教育」(5月発行)において、各ご家庭での子どもたちへのお声がけも大切であると考え、学校運営協議会から皆様へ以下の目標を提案させていただきました。

こだま学級 「自分から元気なあいさつ、へんじをしよう！」
低学年「笑顔であいさつしよう！」
中学年「相手のことを思いやろう！」～よく見よう、よく知ろう～
高学年「自分の言葉で伝えよう！」

■ 子どもたちに次の質問した結果、以下の通りになりました。

設問	1・2年生・こだま学級 だれとでも、笑顔であいさつができます。
	3・4年生 相手のことを思いやることができます。
	5・6年生 自分の思いを自分の言葉で伝えています。



■ 保護者の皆様にも質問をさせていただき、その結果は以下の通りになりました。

【設問】：配信している「あまぬまだより」をご覧になっている頻度を教えてください。



【設問】：学校ホームページのブログ「校長室だより」をご覧になっている頻度を教えてください。



【設問】：この1年間を通して、お子さんは今年度の目標を達成できていたと思いますか？



【設問】：お子さんに対して今年度の目標を達成しようと働きかけましたか？



【設問】：今年度（4月から現在までの間）に学校に来校された回数を教えてください。



令和6年度 みんなの天小アンケート 結果報告

企画・編集 杉並区立天沼小学校学校運営協議会

発行 杉並区立天沼小学校

令和7年3月

許可なく無断複製、複写を禁じます。